

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900409		
法人名	医療法人 清和会		
事業所名	グループホームふれあい三野		
所在地	徳島県三好市三野町加茂野宮 1551 番地2		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様がご家庭でいらっしゃるようなリラックスした雰囲気でも過ごして頂けるように心掛けています。また、畑で農作業を行うことができ、苗植え、草抜きや収穫などを生活に組み入れることで生きがいがあり活気のある生活を送っていただけているようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成31年1月9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、見はらしのよい高台の中腹に位置し、近隣には滞在型市民農園などがある。事業所は、“家庭的で心豊かな生活を、ほほえみ豊かな幸せ家族”という理念を掲げ、利用者の自然な笑顔が、生活の中で引き出せるよう取り組んでいる。共有スペースは、2つのユニットを見渡せる造りとなっており、畳や大型ソファなど、利用者が思いおもしろい場所で過ごせるよう工夫されている。同一法人の運営する併設施設とともに行う行事や地域のボランティアクラブ・ちびっこ神輿の訪問もあり、利用者が地域住民と交流する機会となっている。食事は事業所で全て調理されており、利用者に食事をより楽しんでもらえるように、事業所の畑で利用者と一緒に栽培・収穫した野菜をメニューに取り入れたり、職員と会話しながら食事をしたりしている。事業所は、独自の研修会や併設施設合同での研修会を開催し、職員の資格取得や働く意欲の向上にも努めており、研修会や委員会で学んだ内容は、日頃のケアに積極的に活かせるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念・三訓を唱和しスタッフが同じ意識のもとでケアを実施することが出来るように努めている。	事業所は、地域密着型サービスの意義や役割を理解し、“家庭的で心豊かな生活を、ほほえみ豊かな幸せ家族”という理念を掲げている。全職員で理念を共有し、利用者の視点で話しあい、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の児童を行事に招待したり、季節ごとのお祭りに参加する事で地域社会との交流の機会としている。	事業所では、近隣の散歩や敷地内での日光浴を行い、利用者や住民との交流の機会を作っている。地域のボランティアクラブや児童の来訪、ふれあい祭り等にも参加している。職員は、認知症サポーターキャラバンメイトとして、地域福祉の担い手の役割を務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老健ふれあいと共に地域住民を対象とした認知症サポーター養成講座を開催。地域の方々に認知症を理解して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みや今後の活動についての報告を行い、参加委員との意見交換を行っている。また、地域の福祉状況を知る機会となり今後の方向性を考える場ともなっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所から活動状況等の報告や地域の情報について共有化を図り、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やふれあい新聞を発行することにより、当施設の取り組みを報告し、より密接に関わっていただける関係性になるよう努めている。	職員は、市担当窓口に出かけ、申請や実績報告を行っている。市が開催する研修会に参加したり、介護保険課以外の担当窓口とも相談・話し合いをしたりすることで、協働関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や身体拘束廃止委員会にて身体拘束に関する知識と廃止への意識付けを行っている。また、委員会では定期、随時に拘束廃止への話し合いをもっている。	事業所は、毎月開催される身体拘束廃止委員会や年3回の併設施設との合同勉強会で、考え方の共有化を図っている。職員は、学んだ事を日々のケアの中で振り返り、利用者が安全で自由に暮らせるよう、支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催しスタッフに虐待についての勉強の機会を設けている。勉強会資料は全スタッフに配布し虐待についての意識向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法改正や新制度導入時にはご家族様やスタッフに資料配布と内容説明を行い、関係機関との連携を図るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者様とご家族様に対して契約内容の説明を行っている。改正時についても同様に説明・同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の場にて意見交換の場を設けており、利用者様には日常生活においても常に要望を伝えることのできる環境づくりに努めている。また、意見箱を設置し幅広く意見が集まるようにしている。	職員は、利用者や家族との会話や生活の中で、意見や要望を引き出すよう努めている。年3回の家族会の行事や草取り等のボランティア活動を通じて、利用者の状況を伝えたり、希望や意見を聞いたりしている。出された意見や要望は関係者間で話しあうなどして、意見を反映させるための取り組みに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回ミーティングにて、スタッフの意見を吸い上げて検討し反映させている。良い意見は管理者より経営者へ相談し施設運営に反映させている。	管理者やユニットリーダーは、ミーティングや日頃の会話の中で、職員から意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。出された意見は、職員が働きやすい環境づくりや運営面に反映できるよう、代表者や管理者で検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職とスタッフが面談し、業務上生じる悩みや職場環境の改善について話し合う場を設けている。また、週一回のミーティングでも職場環境についての意見を吸い上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を行ったり、法人内外の研修に参加する事でスキルアップの機会としている。また、外部研修には補助制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で施設家族会議があり、そこで情報の共有や課題の検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて本人様やご家族様へ聞き取りを行い、入居後の生活についての不安を取り除くよう努めている。また、入居後は計画作成担当者と担当スタッフによりニーズの把握に努めている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者を中心に、ご家族様と共に入居者様を支援していくという意識の共有を図り些細なことでも話せる関係づくりを行っている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった時点で入居者様の身体・精神状態の把握に努め、管理者と介護支援専門員を中心にどのような支援方法やサービスが望ましいか検討している。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と世間話や昔話をする時間を持つなど、スタッフは意識をして入居者様とのコミュニケーションを図り感情の共有やニーズの把握に努めている。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当スタッフからご家族様への手紙を隔月で送り生活状況をお伝えしており、これが施設やスタッフとご家族様との信頼関係の構築に結びついている。面会時も同様に報告を行いご家族様と共にケアを行う関係づくりに努めている。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の馴染みであった場所に出掛けたりする機会を設けている。また、ドライブバスを実施し入居者様一人ひとりの思い出の場所へと出向いたりしている。	職員は、利用者が入居に至るまで培ってきた人間関係や社会関係について把握するよう努めている。近隣の方や知人の来訪も多く、継続的に交流できるよう支援している。また家族の協力を得て、墓参りや一時帰宅支援も行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや雑談など入居者様同士のコミュニケーションを大切にしている。また、畑仕事や洗濯など生活の場で入居者様同士が積極的にかかわる機会があり、スタッフは見守り交流を支援するようにしている。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入居者様とご家族様が落ち着かれるまでは、相談に応じメンタルのケアや実生活での不安の解消に努めている。また、退所後の利用機関にも利用者の同意を得て情報提供が出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活や生活歴を入居者様やご家族様から聞き取りする。また、日頃の様子からその方の意志や意向を推測しケアに当たっている。その情報はスタッフで共有し対応してる。	事業所では担当者制をとっており、日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また月1回の病院受診時には介護計画作成者が同行している。把握した思いや意向は、全職員で共有化を図り、支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や契約時、面会時などにご家族様からこれまでの生活状況を情報収集している。また、利用機関があればそちらからの情報も同様に収集しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活の情報はカルテに記載し全スタッフが把握し共有できるようにしている。朝礼や終礼、ノートで申し送りを行い共通理解の下で支援できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本様やご家族様とのコミュニケーションの中で得た情報でご本人様が望む暮らしを提案し、それをケアプランに盛り込むよう努めている。また、その計画はご本人様やご家族様に説明し理解・同意を得ている。	職員は、本人や家族から意見や情報を得て、その人らしく暮らせるよう話しあっている。利用者のできることや笑顔になることを、日頃の生活の目標・計画に取り入れている。利用者の状態や要望の変化に応じて、定期的に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の情報は昼夜ともカルテに記載するようしており全スタッフが入居者様の状況を把握し支援出来るようにしている。また、ケア会議にも材料として用いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の状況に応じて送迎や通院などの対応を行えるような体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアクラブの協力を得たり、保育所などの児童を招く取り組みをしている。また、公共施設の利用や地域の催しに参加するなどを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様の希望の病院に受診できるように支援している。入所時に医療連携している病院の説明を行い要望があればかかりつけ医の引継ぎを支援している。	事業所では、利用者一人ひとりの希望にそったかかりつけ医の受診を支援している。週1回協力機関の看護師による訪問看護を受け入れて、定期的な体調管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護や老健看護師と連携し健康管理や異常の早期発見が出来るようにしている。また訪問看護での内容を全スタッフで共用できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供はもとより入院中も病院を訪問して状態把握や入居者様、ご家族様の相談に応えられるようにしている。また、病院関係者とも連携をとりスムーズな退院が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様やご家族様の意向に添えるように出来るだけ対応させていただくことを入居時に説明。また、そのような事が近日に予測できる場合は、早い段階でご家族様と話し合い最善の支援が出来るようなサポート体制を取れるようにしている。	職員は、利用者や家族に重度化した場合や終末期支援のあり方について意思確認を行い、事業所が対応可能なケアについて説明している。また、利用者・家族の意向にそった支援が行えるよう、日頃から医療機関や訪問看護師と連携し、チームで支援していくための基盤づくりに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを元に対応についての勉強会を行うと共に看護師から応急処置や緊急時の対応について訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成し定期的に防災訓練を行っている。また、消防署と連携し消火器の扱い方や災害時の対応、警報機器について学んでいる。	年2回、消防署と連携して防災訓練を行っている。事業所では、マニュアルを整備したり、備蓄品を準備したりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様のプライバシーを尊重し、居室やトイレ、入浴などは特に他者の目が触れないように気を付けている。また、ミーティングにてプライバシー保護について問題点があれば職員で話し合い改善していく体制を作っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格や意見を尊重し、適切な言葉かけや対応に努めている。日頃の支援の中で、人権や自己決定を尊重するための対応について研修したり、職員間で話しあったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アットホームな雰囲気づくりを行い入居者様が希望や要望を伝えやすい環境になるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームならではのゆったりとした時間の流れがあり、入居者様がそれぞれのペースで生活できる空間づくりを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各担当者が中心となって入所者様の好みやご家族様から以前に使用していた衣類などを持参して頂き、身だしなみを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の出来ることはスタッフと共に調理や盛り付けを手伝って頂き、家庭的な雰囲気共有できるように努めている。食事中も食事について話をするにより楽しんで食事をしていただけるようにしている。	食事は全て事業所内で調理されており、下準備や片付けは利用者の力量に応じて行っている。職員と利用者は同じテーブルを囲み、食事が楽しいものとなるよう支援している。菜園で収穫された野菜を使った料理やおやつ作りも利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立で栄養バランスは保っており、食事摂取量や水分量、体重の変化などを記録し、主治医とも連携し個別の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを行っており、その方の状況により舌ブラシを用いたケアを行っている。また、夕食後に入れ歯の洗浄を行い清潔に努めている。		

自己	外部	項目	1ユニット		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況や尿量、排泄パターンに応じた個別のケアを実施しており、身体の変化や残存能力の変化に応じて排泄ケアの見直しや改善を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、自立に向けて支援している。本人の気持ちを大切に支援や一人ひとりの習慣にあった支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表や1日の活動量を増やし自然排便が出来るようにサポートしている。それでも排便が難しい方は主治医と連携し取り組むようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様一人ひとりの希望をきき1週間単位でのスケジュールを組み入浴を行うようにしている。	事業所では、週2回入浴できるよう支援している。時間帯や回数、同性介助等利用者の希望を尊重している。利用者の好みのシャンプーや石鹸を使用したり、入浴を拒む方に対して声かけのタイミングを変えたり、一人ひとりの意向を第一に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はもとより昼間の時間帯であっても入居者様が休息できる時間を確保するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の服薬管理指導を活用し、薬の情報もカルテに記載しスタッフが把握できるようにしている。また、身体状態の変化があれば主治医、薬剤師と連携し対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を参考に一人一人にあったレクリエーションや個別ケアを実践することにより生活にメリハリをつけ、施設での役割や生きがいを見出せるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺地域や馴染みの場所への散歩やドライブを取り入れ社会との繋がりを持ち、心にゆとりを持った生活を送ることが出来るよう取り組んでいる。	事業所では、利用者の希望に応じてドライブバスを出して外出を支援している。利用者が楽しく過ごせるよう、地域の観光スポットやショッピング等に出かけることもある。気候のよい季節には、散歩や日光浴を行い、戸外で気持ちよく過ごせるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブバスでショッピングセンターやスーパーへ出かけ、自分の所持金でお買い物をしていただき、社会生活を体感していただくことで社会への参加意識を持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話が出来る方は入居前の関係性が継続できるように働きかけている。また、スタッフの支援が必要な方はご本人より聞き取りご家族に手紙をお出ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。	家庭の延長としての暮らしを提供できるように、トイレの場所や背丈の低い方でも場所がわかるように表示をしたり、アイデアを出し合いケアを行っている。	ホールは2つのユニットを区切ることなく、見渡せる造りとなっている。畳やソファを設置したり、行事の写真や職員と利用者で制作した季節の飾り付けをしたりして、利用者が思いおもいの場所で居心地よく過ごせる環境づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様のコミュニティがあり、それに配慮しながら各々がゆったりとくつろげるよう家具の配置を変更するなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅ですようしていた物を持ち込んでいただいたり、また、レクリエーションで制作したものを飾ったり居室が安心できる空間になれるように支援している。	事業所では、居室に愛着のある家具や電気布団、テレビや携帯電話を持ち込んでもらっており、その人らしく、プライベートな時間が過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面においてはインシデントケースを分析、共有し個別に安全対策が行えるようにしている。また、ミーティングやケア会議でも個別に安全対策を話し合っ安全な環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念・三訓を唱和しスタッフが同じ意識のもとでケアを実施することが出来るように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の児童を行事に招待したり、季節ごとのお祭りに参加する事で地域社会との交流の機会としている。		
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老健ふれあいと共に地域住民を対象とした認知症サポーター養成講座を開催。地域の方々に認知症を理解して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みや今後の活動についての報告を行い、参加委員との意見交換を行っている。また、地域の福祉状況を知る機会となり今後の方向性を考える場ともなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やふれあい新聞を発行することにより、当施設の取り組みを報告し、より密接に関わっていける関係性になるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や身体拘束廃止委員会にて身体拘束に関する知識と廃止への意識付けを行っている。また、委員会では定期、随時に拘束廃止への話し合いをもっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催しスタッフに虐待についての勉強の機会を設けている。勉強会資料は全スタッフに配布し虐待についての意識向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法改正や新制度導入時にはご家族様やスタッフに資料配布と内容説明を行い、関係機関との連携を図るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者様とご家族様に対して契約内容の説明を行っている。改正時についても同様に説明・同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の場にて意見交換の場を設けており、利用者様には日常生活においても常に要望を伝えることのできる環境づくりに努めている。また、意見箱を設置し幅広く意見が集まるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回ミーティングにて、スタッフの意見を吸い上げて検討し反映させている。良い意見は管理者より経営者へ相談し施設運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職とスタッフが面談し、業務上生じる悩みや職場環境の改善について話し合う場を設けている。また、週一回のミーティングでも職場環境についての意見を吸い上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を行ったり、法人内外の研修に参加する事でスキルアップの機会としている。また、外部研修には補助制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で施設連家会議があり、そこで情報の共有や課題の検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて本人様やご家族様へ聞き取りを行い、入居後の生活についての不安を取り除くよう努めている。また、入居後は介護支援専門員と担当スタッフによりニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・介護支援専門員を中心に、ご家族様と共に入居者様を支援していくという意識の共有を図り些細なことでも話せる関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった時点で入居者様の身体・精神状態の把握に努め、管理者と介護支援専門員を中心にどのような支援方法やサービスが望ましいか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と世間話や昔話をする時間を持つなど、スタッフは意識をして入居者様とのコミュニケーションを図り感情の共有やニーズの把握に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当スタッフからご家族様への手紙を隔月で送り生活状況をお伝えしており、これが施設やスタッフとご家族様との信頼関係の構築に結びついている。面会時も同様に報告を行いご家族様と共にケアを行う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の馴染みであった場所に出掛けたりする機会を設けている。また、ドライブバスを実施し入居者様一人ひとりの思い出の場所へと出向いたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや雑談など入居者様同士のコミュニケーションを大切にしている。また、畑仕事や洗濯など生活の場で入居者様同士が積極的にかかわる機会があり、スタッフは見守り交流を支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入居者様とご家族様が落ち着かれるまでは、相談に応じメンタルのケアや実生活での不安の解消に努めている。また、退所後の利用機関にも利用者の同意を得て情報提供が出来るようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活や生活歴を入居者様やご家族様から聞き取りする。また、日頃の様子からその方の意志や意向を推測しケアに当たっている。その情報はスタッフで共有し対応している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や契約時、面会時などにご家族様からこれまでの生活状況を情報収集している。また、利用機関があればそちらからの情報も同様に収集しケアに生かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活の情報はカルテに記載し全スタッフが把握し共有できるようにしている。朝礼や終礼、ノートで申し送りを行い共通理解の下で支援できるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本様やご家族様とのコミュニケーションの中で得た情報でご本人様が望む暮らしを提案し、それをケアプランに盛り込むよう努めている。また、その計画はご本人様やご家族様に説明し理解・同意を得ている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の情報は昼夜ともカルテに記載するようしており全スタッフが入居者様の状況を把握し支援出来るようにしている。また、ケア会議にも材料として用いている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の状況に応じて送迎や通院などの対応を行えるような体制をとっている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアクラブの協力を得たり、保育所などの児童を招く取り組みをしている。また、公共施設の利用や地域の催しに参加するなどを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様の希望の病院に受診できるように支援している。入所時に医療連携している病院の説明を行い要望があればかかりつけ医の引継ぎを支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護や老健看護師と連携し健康管理や異常の早期発見が出来るようにしている。また訪問看護での内容を全スタッフが共用できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供はもとより入院中も病院を訪問して状態把握や入居者様、ご家族様の相談に応えられるようにしている。また、病院関係者とも連携をとリスムーズな退院が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様やご家族様の意向に添えるように出来るだけ対応させていただくことを入居時に説明。また、そのような事が近日に予測できる場合は、早い段階でご家族様と話し合い最善の支援が出来るようなサポート体制を取れるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを元に対応についての勉強会を行うと共に看護師から応急処置や緊急時の対応について訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成し定期的に防災訓練を行っている。また、消防署と連携し消火器の扱い方や災害時の対応、警報機器について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様のプライバシーを尊重し、居室やトイレ、入浴などは特に他者の目が触れないように気を付けている。また、ミーティングにてプライバシー保護について問題点があれば職員で話し合い改善していく体制を作っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アットホームな雰囲気づくりを行い入居者様が希望や要望を伝えやすい環境になるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームならではのゆったりとした時間の流れがあり、入居者様がそれぞれのペースで生活できる空間づくりを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各担当者が中心となって入所者様の好みやご家族様から以前に使用していた衣類などを持参して頂き、身だしなみを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の出来ることはスタッフと共に調理や盛り付けを手伝って頂き、家庭的な雰囲気共有できるように努めている。食事中も食事について話をするにより楽しんで食事をしていただけるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立で栄養バランスは保っており、食事摂取量や水分量、体重の変化などを記録し、主治医とも連携し個別の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを行っており、その方の状況により舌ブラシを用いたケアを行っている。また、夕食後に入れ歯の洗浄を行い清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況や尿量、排泄パターンに応じた個別のケアを実施しており、身体の変化や残存能力の変化に応じて排泄ケアの見直しや改善を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表や1日の活動量を増やし自然排便が出来るようにサポートしている。それでも排便が難しい方は主治医と連携し取り組むようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様一人ひとりの希望をきき1週間単位でのスケジュールを組み入浴を行うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はもとより昼間の時間帯であっても入居者様が休息できる時間を確保するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の服薬管理指導を活用し、薬の情報もカルテに記載しスタッフが把握できるようにしている。また、身体状態の変化があれば主治医、薬剤師と連携し対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を参考に一人一人にあったレクリエーションや個別ケアを実践することにより生活にメリハリをつけ、施設での役割や生きがいを見出せるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺地域や馴染みの場所への散歩やドライブを取り入れ社会との繋がりを持ち、心にゆとりを持った生活を送ることが出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブバスでショッピングセンターやスーパーへ出かけ、自分の所持金でお買い物をしていただき、社会生活を体感していただくことで社会への参加意識を持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話ができる方は入居前の関係性が継続できるように働きかけている。また、スタッフの支援が必要な方はご本人より聞き取りご家族に手紙をお出ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の延長としての暮らしを提供できるように、トイレの場所や背丈の低い方でも場所がわかるように表示をしたり、アイデアを出し合いケアを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様のコミュニティがあり、それに配慮しながら各々がゆったりとくつろげるよう家具の配置を変更するなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅でしようしていた物を持ち込んでいただいたり、また、レクリエーションで作したものを飾ったり居室が安心できる空間になれるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面においてはインシデントケースを分析、共有し個別に安全対策が行えるようにしている。また、ミーティングやケア会議でも個別に安全対策を話し合っ安全な環境づくりに努めている。		